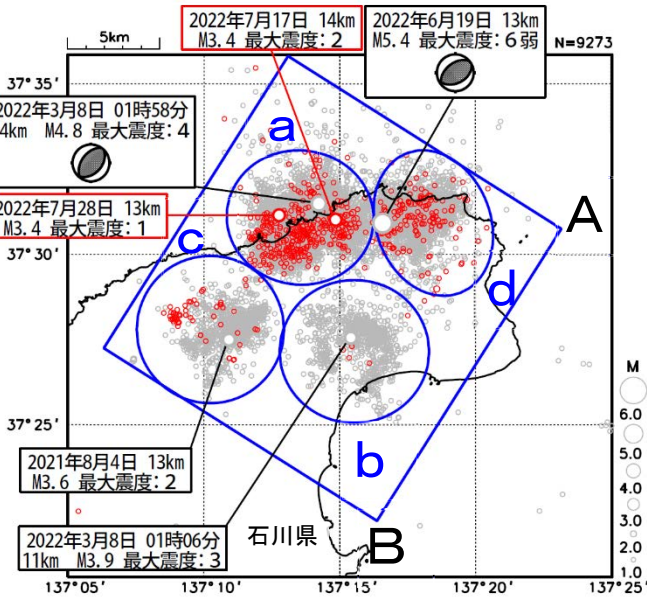


石川県能登地方の地震活動

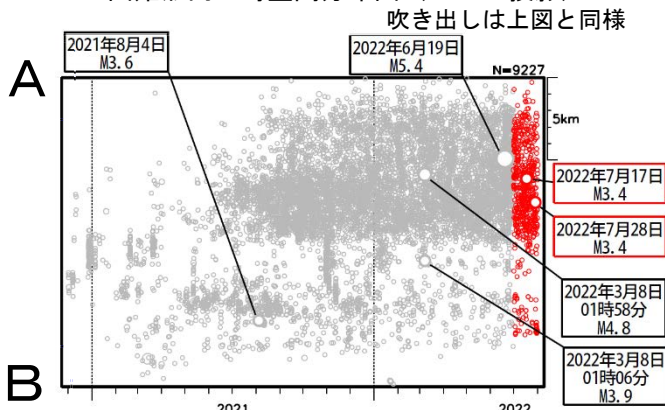
震央分布図

(2020年12月1日～2022年7月31日、
深さ0～25km、M \geq 1.0)

黒色の吹き出しは領域a～dの各領域内で最大規模の地震
赤色の吹き出しは矩形内で2022年7月中の最大規模の地震
2022年7月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解

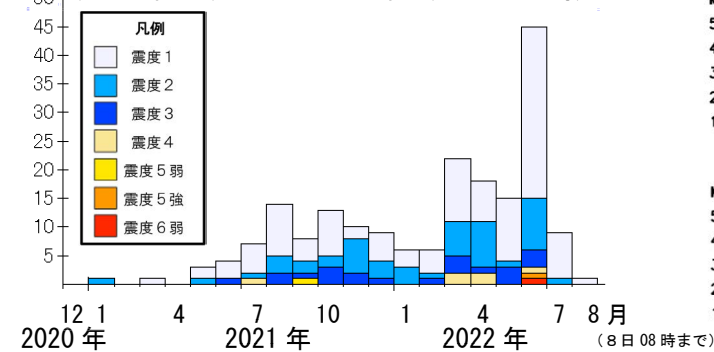


上図矩形内の時空間分布図 (A-B投影)



矩形内の地震の月別震度別発生回数

(2020年12月1日～2022年8月8日08時)



期間別・震度別の地震発生回数表

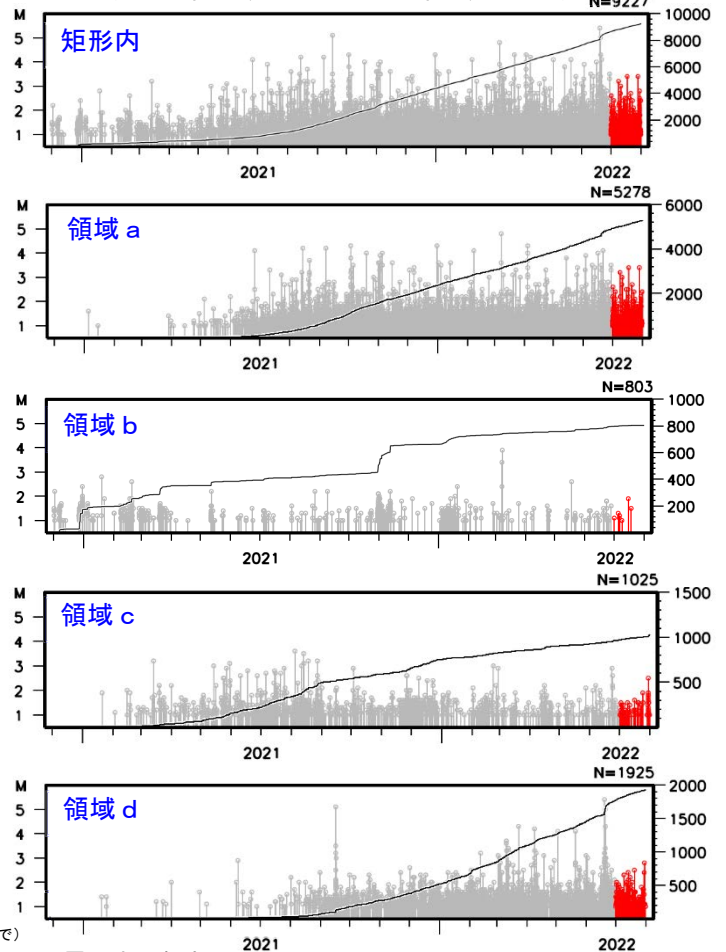
期間	最大震度別回数							計
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	
2020年12月1日～2022年6月30日	105	47	21	6	1	1	1	182
2022年7月1日～31日	8	1	0	0	0	0	0	9
2022年8月1日～8日08時	1	0	0	0	0	0	0	1
計	114	48	21	6	1	1	1	192

石川県能登地方 (矩形内) では、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃からさらに活発になっている。2022年7月中もその傾向は継続している。2022年7月中の最大規模の地震は、17日に能登半島沖で発生したM3.4の地震 (最大震度2) 及び28日に能登半島沖で発生したM3.4の地震 (最大震度1) である。なお、活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2022年6月19日に発生したM5.4の地震 (最大震度6弱) である。

2020年12月以降の領域別の地震活動をみると、最初に活発化した領域bの活動は、2021年4月以降鈍化傾向であるが、2021年11月初頭前後、2022年1月頃及び3月頃に一時的に活発になった。領域bに続き活発化した領域cの活動も、2021年9月以降鈍化傾向であるが、2021年12月にやや活発になった。一方、遅れて2021年半ば頃から活発化した領域a及び領域dの活動は依然活発である。矩形領域内で震度1以上を観測した地震の回数は期間別・震度別の地震発生回数表のとおり。

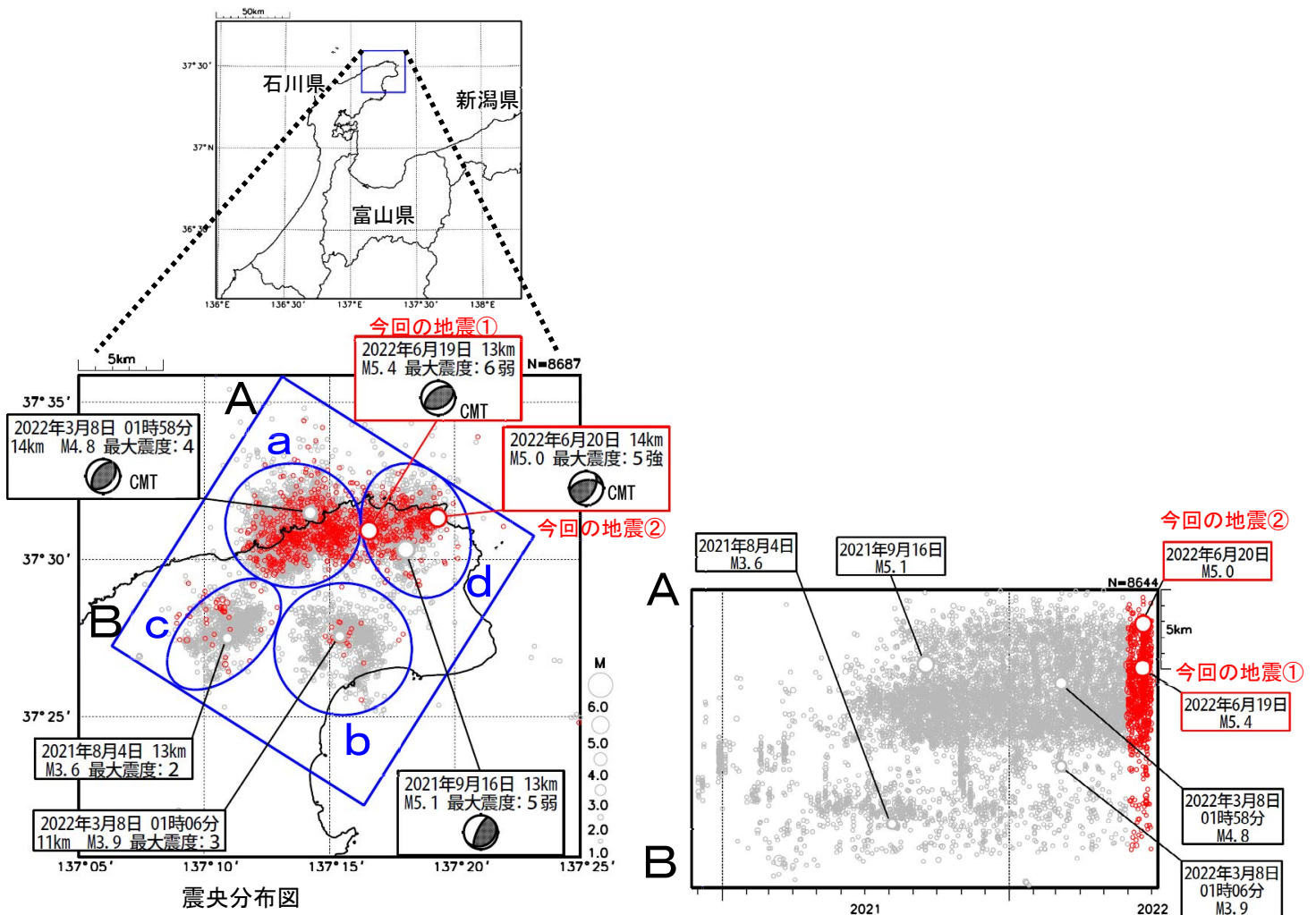
左図矩形内及び領域a～d内のM-T図及び回数積算図

(2020年12月1日～2022年7月31日)



6月19日、20日 石川県能登地方の地震

2022年6月19日15時08分に深さ13kmでM5.4の地震（最大震度6弱、今回の地震①）が発生した。この地震は活動の全期間を通じて最大規模の地震である。この地震の発震機構（CMT解）は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震により、軽傷者7人などの被害が生じた（2022年7月1日17時00分現在、総務省消防庁による）。また、6月20日10時31分に深さ14kmでM5.0の地震（最大震度5強、今回の地震②）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。いずれの地震も地殻内で発生した。



震央分布図

(2020年12月1日～2022年6月30日、
深さ0～25km、 $M \geq 1.0$)

黒色の吹き出しは領域a～dの各領域内で
最大規模の地震及び最大震度5弱以上の地震
2022年6月の地震を赤色で表示

左図矩形内の時空間分布図（A-B投影）
吹き出しは図2-1と同じ